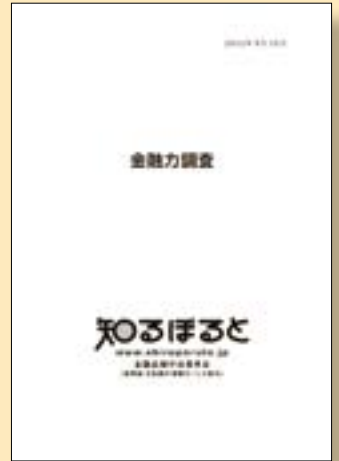


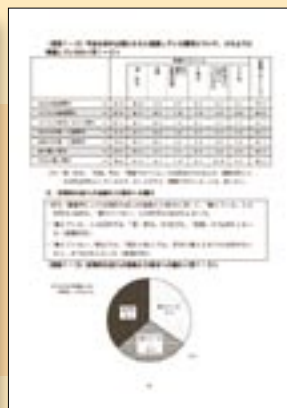
# 金融力調査 (2012年9月21日公表)

金融広報中央委員会では、2012年9月に「金融力調査」の結果を公表しました。これまでも金融に関する知識のレベルを把握することを主目的とした調査（金融に関する消費者アンケート調査等）を実施したことはありますが、「金融力調査」では、金融知識だけでなく、個人が金融活動においてどのように行動するか、といったトータルな金融リテラシーを把握することを目的としました。また、国によって、金融商品や金融制度に違いがあって単純に比べられません。可能な範囲で国際的な比較をすることも意識しています。



この調査結果から浮かび上がってきた特徴点の一部として、以下のようなものがあります。

- 「金融に関する考え方と行動」は、基本的に長期志向で堅実かつ慎重な傾向が窺われた。
- 「金融経済に関する知識」については、基礎的な金利計算などの理解の正答率が高い。他方、リスク商品に対する理解、複利計算、借入金利の法令上の上限などの分野では正答率は低い水準にある。
- 高齢者は、自らの知識や判断力への評価は高いが、金融商品のリスクに関連した設問等、知識面での正答率が低く、情報収集面でも情報入手不足・関心不足を示す回答比率が高い。
- 若年者は、お金の使い方に関して注意を払っている度合いを示す回答比率が低い。
- 金融・経済の情報に接する頻度が高い人は、そうでない人に比べて知識を問う設問で正答率が高い。また、「金融に関する考え方と行動」において長期志向的な回答をした人は、知識面での正答率が高い。



当委員会では、「金融力調査」から得られた結果を活かして、各層の方々が必要としている金融広報や金融教育の支援を行っていきたいと考えています。

調査結果は知るぽるとホームページに掲載しています。

<http://www.shiruporuto.jp/finance/chosa/kinyuryoku/index.html>